

No. 951

クレイのKOパンチ不発

日本初のプロボクシング・ヘビー級公式試合、前チャンピオンのカシアス・クレイ対マック・フォスターの15回戦は4月1日、東京・九段の日本武道館に1万4千人の大観衆を集めて行なわれました。華やかなセレモニーに続いて、定刻どおり開始のゴング。

クレイは終始左のリードパンチでフォスターを圧倒。文句ない判定勝ちで格違いの貫録を示しました。しかし、ファン期待のスリリングなダウンやKOシーンはついに見られず、単調な試合内容でした。

＊5回KOの予告劇、どうやらファンをなめたクレイの自作自演によるエープリルフール劇だったようです。

明日にむかって

—山崎選手と土佐希望の家—

この子供たちも新学期を迎えた。

今日は始業式いうても、誰も演説する人おらんけんね。時間割の説明をする。きく組は言語訓練をしんけんにやってもらう。もうじき話せるようになるけんね。

高知県南国市の小高い丘に建つ重症身障児施設、[＊]土佐希望の家、競輪選手山崎勲さん(43歳)の子供たちに贈ったでっかいプレゼントだ。

長くけわしい道のりだった。昭和38年、長男昇ちゃんは生れた。脳性小児マヒだった。高知市内だけでも70人近くいる事を知った山崎さん。各方面に施設の必要性を訴えたが、どこでも相手にされなかった。肌で知った世の中の冷たさ。

[＊]自分でつくってやる。そう決意して、ペダルを踏みつづけた。稼いだお金は建設資金につき込んだ。レースのない日は作業奉仕をかっててた。最初は相手にもしてくれなかった県や市、日本自転車振興会も熱意に動かされた。

そして、昨年ようやくこぎつけた開設。しかし、昇ちゃんは、その間に短かい一生を終えた。看護人の介添えがなくては何ひとつ満足にできない子供たち。しかし、子供たちは子供たちなりに考えている。夢もある。毎日の生活の反省もする。

せいっぱい生きようとしているのだ。全国で2万人とも3万人ともいわれる重症身障児。その全金どが施設にも入れず、陽のあたらない片隅においやられている。

この子等にも太陽を！ こう叫ばれてから幾年の月日が過ぎたであろう。

これらの子供たちも生きる権利があることは誰しもわかっているはずなのに……。

競輪A級選手山崎さんは、[＊]いきがい。をつかんで子供たちと、明日にむかって歩む。